

点在していた社内サーバを2ノードの
vSAN Ready Nodeに集約。

BCPも考えた耐障害性や可用性の高い環境を構築。

株式会社ロゼッタでは、複数のデータセンターやレンタルサーバで利用していたサーバの老朽化に伴い、それらを仮想化基盤に集約することを計画。Dell EMCの提案によって2ノードvSANを導入して、サーバ集約化や運用負荷の低減を実現している。



AIによる機械翻訳サービスの開発・提供

日本

ビジネス課題

株式会社ロゼッタの社内サーバは、企業の成長に従い、3つのデータセンターやレンタルの専用サーバに分散されてしまっていた。そのため、複数の窓口との事務処理に手間がかかり、サーバの老朽化によるトラブル発生やコストに見合わないパフォーマンスといった課題を抱えていた。そこで、1つのデータセンターに仮想化基盤を構築してサーバを集約することを決意する。

ソリューション

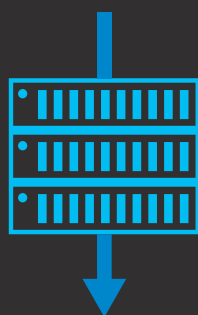
- Dell EMC vSAN Ready Node
 - [Dell EMC PowerEdge R440](#)
 - [Dell EMC PowerEdge R330](#)
- エンタープライズサポート
 - [Dell EMC ProSupport Plus](#)

導入効果

- 3か所のデータセンターやレンタルサーバに分散していたサーバを集約し、管理運用の手間を軽減。
- 2ノードvSANを実現することで、耐障害性や可用性を向上させ、BCPを意識した環境を実現。
- サーバ集約化でパフォーマンスやスループット、運用効率などを大幅に向上。
- RPAなどの新たなシステム導入時の検証環境として2ノードvSANを活用できる。

3か所5台
⇒ 1か所3台

複数個所のサーバを
1か所に集約



2ノード

2ノードvSANの
実現によって
コストを抑えた
HCI導入が可能



株式会社ロゼッタ(以下、ロゼッタ)は、「我が国を言語的ハンディキャップの呪縛から解放する」をミッションに、AIによる機械翻訳サービスをコア事業として成長を続けている会社である。2,000分野以上の業種にチューニングされた機械翻訳サービス『T-400』を提供しており2017年秋には、プロの翻訳者に匹敵する最大精度95%の機械翻訳『T-400 ver.2』をリリースしている。

ロゼッタでは、2台のDell EMC PowerEdge R440で2ノードvSANを構成し、Dell EMC PowerEdge R330をvCenterの監視ホストとして導入し、分散していた社内システム用のサーバを集約。パフォーマンスやスループットを向上させたほか、耐障害性や可用性も向上させ、事務処理などの運用負荷も低減させている。

「2ノードvSANによって
BCPも意識した可用性と
耐障害性の高い環境を構築でき、
いつトラブルが起きても
おかしくない状態から脱却し、
心理的な部分も含めて
運用負荷を下げることができました。
今回のような手軽に導入できる
オンプレミスの仮想化基盤は、
我々にマッチしたソリューションだと
思います」

株式会社ロゼッタ
情報システム本部
執行役員 CIO
濱崎 秀樹 氏

ディープラーニング基盤構築の 実績から Dell EMC に相談

2004年に設立されたロゼッタは、機械翻訳の精度を上げることに注力し、翻訳業務の完全な自動化を目指して事業を拡大している。「翻訳精度を上げることによって、単純な翻訳業務はすべて機械に任せて、それを基により付加価値の高い業務を人間が行えるようになってきました。我々は、分野に特化しなければしっかりとした翻訳はできないと考え、2,000以上の分野に対応した機械翻訳サービスを提供しています。マニュアル

や契約書などで翻訳需要の高い製造業はもちろん、医薬分野や金融分野、法務分野などに強く、翻訳精度が高いことが我々の強みです」と株式会社ロゼッタ マーケティング本部 マネージャーの三重野隆史氏は説明する。今後も各分野の翻訳精度を上げるため、医薬分野ではグラクソ・スミスクラインと製薬業向けAI翻訳の共同開発を行い、金融分野では日本取引所グループとIR情報の翻訳精度向上の実証実験を行い、法務分野では弁護士ドットコムと連携し法務分野における翻訳業務の効率化を推進するなど、各社との業務提携も進めている。

ロゼッタでは、事業所の移転や事業の成長に伴い、大阪で1か所、東京で2か所のレンタルサーバを利用しており、社内ポータルや社内システム用のサーバが点在していることが課題となっていた。また、いくつかのレンタルサーバも利用しており、これらを整理する必要もあったと株式会社ロゼッタ 情報システム本部 執行役員 CIOの濱崎秀樹氏は話す。「必要に応じて内製した社内システムが点在し、老朽化も進んでいました。月々のコストも大きく、これらのサーバを整理して集約し、BCPも考えた耐障害性や可用性の高い環境にしたいというのは、以前からの課題でした」。

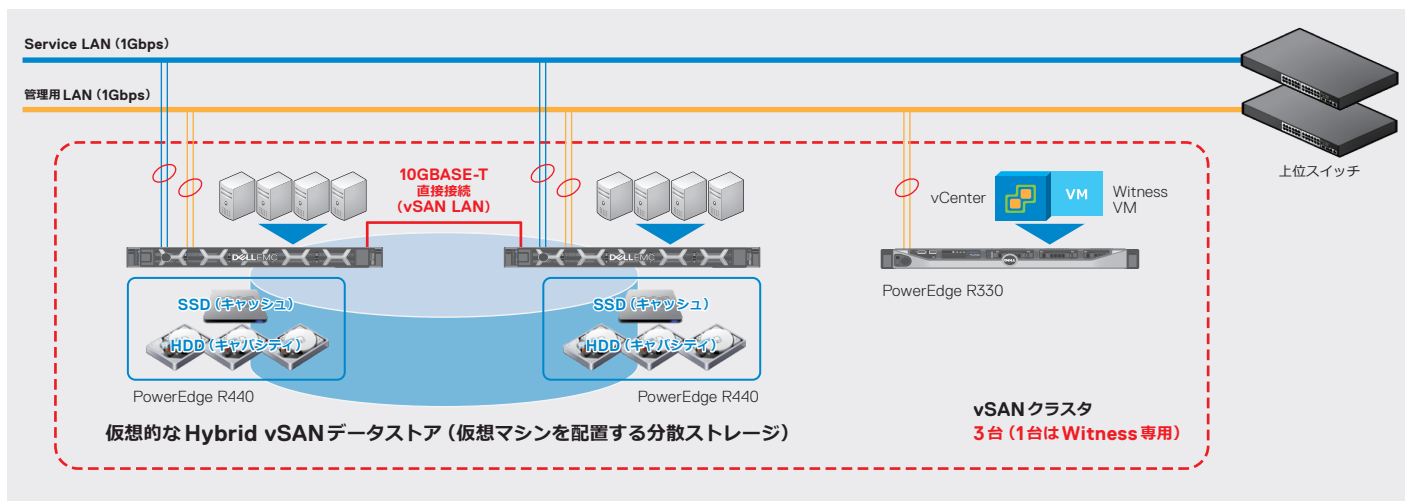
2018年初頭から仮想化基盤への集約を検討していた同社では、2月の期末に来年度予算の策定を行う際に、改めてこれらのサーバのコストなどを見直し、仮想化基盤の構築を決意。翻訳精度の向上のためにディープラーニング基盤を導入した開発本部の紹介で、Dell EMCに相談することにしたという。

Dell EMCからの提案で2ノードの vSAN Ready Nodeを採用

「一部システムにおいては5年前くらいからVMwareによる仮想化は行っており、当初は、慣れているVMware vSphere®を使った仮想化基盤を想定していました。しかし、Dell EMCから2ノードvSANを提案されて非常に驚きました。VMware vSAN™は、3ノードが最小構成でコストが高く、大規模なシステムでしか使えないというイメージを持っていましたが、2ノードであれば比較的小さな構成でもコストを抑えて導入できると説明を受け、コストメリットがあると判断しました」と株式会社ロゼッタ 情報システム本部 インフラ管理部 マネージャーの東耕輔氏は説明する。

また、Dell EMCのパフォーマンス情報取得ツール「Live Optics」を使うことによって、サイジングもスムーズに行えたと東氏は話を続ける。「vSANは初めてだったので、どのような構成にし、どのようなスペックが必要になるかがまったくわからない状態でした。Dell EMCとの初回のミーティング時にLive Opticsが提供されたおかげで、CPUやメモリ、ストレージなどの現状を把握することができ、スムーズにサイジングを行って頂くことができました」。

2018年4月からDell EMCと緊密にデータシートを基に構成などを詰めていき、Live Opticsのレポートから現在の物理サーバの使用リソース量を積算し、今後の活用も含めたサイジングを行った結果、1+1のHA構成を前提として、PowerEdge R440 1台あたりのCPUを



システム構成図

インテル® Xeon® Gold 6152 プロセッサ (2.1GHz, 22コア) × 1に、メモリを 192GB (16GB × 12 枚)、ディスクを実効容量 4.6TB 以上と定めていく。最終的に、ロゼッタでは、7月に2ノード vSAN 用に Dell EMC PowerEdge R440 を 2 台、Witness (監視ホスト) 用の VMware vCenter® サーバとして Dell EMC PowerEdge R330 を 1 台が導入されている。

「シンプルな構成で HCI 環境を構築できるというのは、比較的小規模なシステムを構築する我々のニーズに非常にマッチしていると感じました。今回は、サーバ 3 台で手軽に低コストで導入でき、特に新たな知識を学

ぶ必要もなく、使い慣れた vSphere の延長で vSAN を使えるので、非常によかったと感じています。また、高額なユニファイドストレージなどを導入する必要がなかった点もよかったですね。ユニファイドストレージの導入や運用には知識が必要となり、他のシステムで使う予定もないため、我々にとっては非常にハードルが高くなります」と東氏は導入当時を振り返る。

運用負荷を軽減し、パフォーマンスや可用性を向上

2 ノード vSAN の導入によって、複数個所に分散していたサーバを集約したことにより、さまざまなメリットを感じていると東氏は説明する。「以前は、月々の課金に加え、ストレージの故障なども発生していたため、ハードウェアの保守費用も掛かっていました。老朽化していつトラブルが起きてもおかしくない状態から脱却でき、心理的な部分も含めて運用負荷は非常に下がっていますね」と濱崎氏は話す。

新たなシステムになることによって、ディスクや CPU のパフォーマンス向上はもちろん、可用性が格段に上がり、3 か所のデータセンターに分散していた手間もなくなったという。「大阪にデータセンターがあったため、スループットにも課題があったのですが、1 か所に整理して集約することでスループットも格段に向上しています。また、細かいことですが、データセンターやレンタルサーバ事業者ごとに毎月の請求処理や年に 1 度の契約交渉などを行っていた手間を省いて効率化も実現しています。サーバの場所ごとに行っていたバックアップの手間も省くことができ、わずかる U で集中管理できることで運用負荷は確実に低減できていると思います」と濱崎氏は説明する。

これまで、複数のデータセンターや事業者、ハードウェアベンダーなどの窓口があった中で、サポートを Dell EMC だけに集約できたことも安心感につながると東氏は話しを続ける。「しっかりと構築していただいたので、現時点ではサポートを必要とするトラブルは発生していませんが、いざというときに Dell EMC に連絡すればよいという安心感があります。

「vSAN は 3 ノードが最小構成で、コストが高く大規模なシステムでしか使えない、というイメージを持っていました。けれど、Dell EMC から 2 ノード vSAN を提案され、可用性も信頼性も向上しコストメリットがあると判断しました」

株式会社ロゼッタ
情報システム本部
インフラ管理部
マネージャー
東 耕輔 氏

何かあったときに、ハードウェアとVMwareのどちらの問題かを考えなくても、Dell EMCに相談すればよいということも安心感につながります」。

また、今回の導入を振り返って、濱崎氏は次のように話してくれた。「クラウドを利用したいと考えても、そこにはさまざまなハードルがあると考えている会社も多いのではないのでしょうか。今回のような手軽に導入できるオンプレミスの仮想化基盤は、VMwareに慣れた我々にとっては使い勝手がよく、リソースの範囲内であれば、仮想マシンを増やしてもコストが増えないため、トータルで考えれば、コスト的にもメリットがあると思います。今回のような、クラウドライクに使えるオンプレミスのサーバは、我々にマッチしたソリューションだと感じました」。

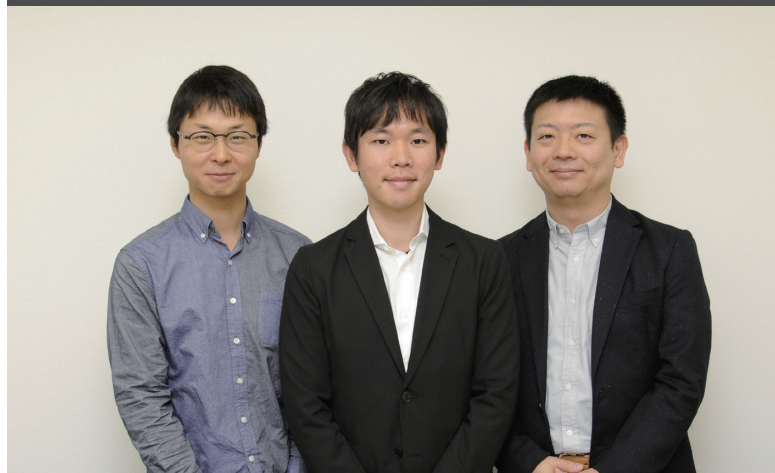
RPA 導入の検証基盤としても活用していく

社内システムなどを順次移行してきたロゼッタの2ノードvSANシステムでは、現時点で5台の仮想マシンが稼働しているが、今後は他の基幹系システムサーバも移行させていく予定だ。「RPA(Robotic Process Automation)の動向にも非常に注目していて、事務作業などの自動化に今回の基盤が役立つのではないかと期待していますね」と東氏が話せば、濱崎氏も次のように続ける。「たとえば、複数の採用サイトを使って社員を募集していますが、募集要項の更新などの単純な作業はRPAで自動化できるのではないかと考えています。デスクトップ型のRPAだけでなく、サーバ型のRPAもあるので、RPA導入が議論に上がっている中で、今回の基盤を実験環境として利用できれば、検証を進めることができ、新たな物理サーバを導入しなくてもすみます」。

今後もロゼッタでは、T-400の翻訳精度をさらに向上させ、ユーザの声を聞きながら機能追加などを進めていくことで、あらゆる業界の翻訳ニーズを満たし、超高精度のAI機械翻訳を実現していく。

「シンプルな構成でHCI環境を構築できるというのは、比較的小規模なシステムを構築する際には大きなメリットとなります。今回は、サーバ3台で手軽に低コストで導入でき、特に新たな知識を学ぶ必要もなく、使い慣れたvSphereの延長でvSANを使えるので、非常によかったと感じています」

株式会社ロゼッタ
情報システム本部
インフラ管理部
マネージャー
東 耕輔 氏



写真左より、三重野 隆史 氏、東 耕輔 氏、濱崎 秀樹 氏

DELL EMC | **vmware®**



Dell EMCの
サーバソリューションの
詳細はこちらから



専門スタッフへの
お問い合わせ



お客様導入事例の一覧は
こちらから



この記事共有する